

細径化腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術における術後疼痛の検討

◆研究の目的と概要◆

当院では鼠径ヘルニアに対する Transabdominal preperitoneal approach (TAPP) 法での臍部ポートにおいて、open method による 12mm ポート、あるいは optical 法による 5mm ポートが患者に応じて選択されています。細径化なし(12mm ポート)を選択した場合と、細径化あり(5mm ポート)を選択した場合で術後疼痛に有意な差を認めるかを明らかにするため調査を行っています。

◆対象となる患者さん◆

2018年9月から、2021年8月までの間に、鼠径部ヘルニアであると診断され、当院で TAPP 法による手術を施行された患者さん

◆研究に使用される情報◆

術後疼痛、手術時間、使用機材、ヘルニア分類

◆研究方法◆

本研究は当院の鼠径ヘルニアデータベースを利用します。

-
- * 研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる情報は利用しません。
 - * 本研究に関するお問い合わせや、カルテ情報の利用についてご了承いただけない場合、以下の問い合わせ先までメールでご連絡ください。
 - * ただし、解析中もしくは論文執筆中のデータ、また、既に学会や論文で発表されたデータについては、削除できないことがありますことをご了承ください。

【問い合わせ先】

公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院

外科 研究責任者 盛田 興輔

E-mail: kenkyu★kchnet.or.jp (臨床研究センター)

(★を@に変換して使用してください)

この研究課題で利用する残余検体・診療情報等の利用については、医の倫理委員会によって「社会的に重要性が高い研究である」等の特段の理由が認められ、実施についての承認が得られています。

※【問い合わせ先】では、次の事項について受け付けています。

- 研究計画書および研究の方法に関する資料の閲覧（又は入手）ならびにその方法（他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護等に支障がない範囲内に限られます。）
- 研究対象者の個人情報についての開示およびその手続
- 研究対象者の個人情報についての利用目的の通知
- 研究対象者の個人情報の開示、訂正等、利用停止等について、請求に応じられない場合にはその理由の説明